

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 兵庫日本語ボランティアネットワーク

1 事業の趣旨・目的

兵庫県には約 10 万 2000 人の外国人が居住している。そのうちの 4 割が新渡来者であり、日本で生活するために彼らの多くが、居住地域、勤務地域で日本語学習を望んでいる。その要望に応えるために、県内には約 70 箇所の日本語教室がある。どの教室も恒常的な学習支援者不足である。また、彼らに連れてこられた子どもたちも増加の一途をたどっている。子どもたちへの支援はどの教室も経験が浅く、試行錯誤で支援に当たっているのが現状である。

兵庫日本語ボランティアネットワークは県下の行政機関(国際関係課、教育委員会)国際交流協会、ひょうご日本語ネットと密接な連携関係を持っているので、人的ネットワークを生かすことができる。また、兵庫日本語ボランティアネットワークは日本語学習者のニーズに応えるための日本語学習支援者養成講座を開催してきた実績がある。この利点を生かし、「退職教員を対象とした日本語指導者養成講座」を行うことができる。

兵庫県では小、中、高等学校の教員が約 4 万人在職し、毎年約 1000～1200 人が退職する。退職者の多くが、退職後、地域社会で活動を望んでいるが、成人を対象とした社会教育の経験がある人はほとんどいない。ましてや日本語教育のノー・ハウを身につけた人はほとんどいない。

ここでは、彼らの教育経験を生かしながら、地域の「外国人」の日本語学習支援活動に必要な態度、知識、スキルを新たに身につけ、地域の日本語学習支援教室に通う成人や学校に在籍する日本語学習支援を必要とする児童生徒の支援者として活動できるように以下を目的とする。

- ① 講座修了者(退職教員)が兵庫県内各地の日本語学習支援教室や学校で活動する機会とする。
- ② 講座修了者(退職教員)が自分の経験を生かし、外国から来た子どもへの日本語学習、母語学習、教科学習支援に参加できるようにする。

2 企画委員会の開催について

【概要】

ひょうご日本語ネットに拡大メンバーが参加し本事業の企画、提言により本事業を推進した。

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
2010.4.15 15:00～ 17:00	兵庫県国際 交流協会会 議室	岸本雅男 松田高明 姉川洋一 山田耕治 水野マリ子 村山 勇 青木直子 酒井滋子 石井真未枝 岸本美紀 奥田純子 清田薫 野村登美子 田中香織 長嶋昭親 湯口恵	本事業の講座内容・日 程 広報などの提案	兵庫日本語ボランティア ネットワークより提案 質疑・承認
2010.11.25 15:00～ 17:00	兵庫県国際 交流協会会 議室	同上	講座参加者の確認 講座中間報告(1)	兵庫日本語ボランティア ネットワークより提案 質疑・承認
2011.1.13 15:00～ 17:00	兵庫県国際 交流協会会 議室	同上	講座修了予定者の確認 講座中間報告(2)	兵庫日本語ボランティア ネットワークより提案 質疑・承認
2011.3.17 15:00～ 17:00	兵庫県国際 交流協会会 議室	同上	本事業報告案について	兵庫日本語ボランティア ネットワークより提案 質疑・承認

【写真】



第4回運営委員会(3月17日)



講座風景(第13回=最終日)

3 養成講座の内容について

(1) 養成講座名:日本語教育指導者養成講座

(2)養成講座の目標:

①修了後、兵庫県内各地の日本語学習支援教室や学校で活動できるようにする。

②修了後、自分の教職経験を生かし、外国から来た子どもへの日本語学習、母語学習、教科学習支援に参加できるようにする。

(2) 受講者の総数 28人

(3) 開催時間数(回数)39時間 (13回)

(4) 参加対象者の要件:教職経験者で退職者および予定者

(5) 受講者の募集方法

①兵庫日本語ボランティアネットワーク加盟のグループ会員へ郵送(メール便)案内

②兵庫県教育委員会より小中高校へ電子メールで案内

* 募集チラシは巻末添付

(6) 研修会場: 神戸市生涯学習センター(コムスタこうべ)・神戸市青少年会館

(7) 使用した教材・リソース:各講師の手作りレジュメ

(9) 講座内容

日時	講座名/学習内容	講師	受講者数
2010年 11月6日 13:30~16:30	1. オリエンテーション 2. 修了生の活動 3. 自己紹介	大阪大学大学院教授 青木直子 赤穂市国際交流協会 久保公二 高校委員	25人

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
	(異文化ワーク)	山田久美子	
2010年 11月13日 13:30～16:30	生活者としての「外国人」 の状況と諸問題-1 1. 概論 2. インドシナ難民とその 家族について 3. 日系労働者とその子ども たちについて	RINK 相談員 木村雄二 NGO ベトナム in 神戸相談 員 ブハヴィエトニャトホワイナム (財)篠山国際理解センタ ー 副代表 矢持ハロカ美智子	26人
2010年 11月20日 13:30～16:30	「外国」から来た子供支援 の現状と課題-1 1. ブラジル人学校での実 践 2. 第二言語教育の理念と 理論。(国語教育、英語教育 と日本語教育の違い)	ブラジル人学校講師 永安龍三郎 大阪大学大学院教授 青木直子	28人
2010年 11月27日 13:30～16:30	生活者としての「外国人」 の状況と諸問題-2 1. 中国帰国者とその家族 について 2. 真陽小学校での取り組 み 3. 日本語学習支援活動に ついて	中国帰国者日本語学習支 援の会コーディネーター 作野好秋 日本語教師 北山夏季 兵庫県教育委員会サポー ター 藤戸直美	23人
2010年 12月4日 13:30～16:30	「外国」から来た子ども支援 の現状と課題-2 実践法①	神戸市小学校教員 村山勇	19人
2010年 12月11日 13:30～16:30	異文化体験学習	コミュニカ学院院長 奥田純子	21人

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
2010年 12月18日 13:30～16:30	「外国」から来た子ども支援の現状と課題－3 実践報告②	愛知教育大研究補佐員 川本遥 愛知教育大研究補佐員 菊池悠	22人
2010年 12月25日 13:30～16:30	日本語支援法－1 自己学習、自己学習支援について（第二言語教育の理念と理論）	大阪大学大学院教授 青木直子	18人
2011年 1月8日 13:30～16:30	日本語支援法－2 自己学習、自己学習支援について（ポートフォリオ作成について）	北九州市大学准教授 小林浩明	19人
2011年 1月15日 13:30～16:30	日本語支援法－3 学習者のニーズに応えるための演習－1	港島日本語教室 コーディネーター 尾形文	19人
2011年 1月22日 13:30～16:30	「外国」から来た子ども支援の現状と課題－4 他地域での先見実践について	神奈川県大和市小学校長 柿本隆夫 すたんどばいみー支援者 内藤順子 西岡歩 チューブ サラン	16人
2011年 1月29日 13:30～16:30	日本語支援法－4 学習者のニーズに応えるための演習－2	神戸大学留学生 ソブドエルデネ 神戸定住外国人支援センター 支援者 高橋博子	20人
2011年 2月5日 13:30～16:30	これからの行動計画について 1. 学校での支援活動について 2. 県内の地域日本語教室紹介	兵庫県教育委員会人権教育課係長 古角美之 兵庫ボランティアネットワーク代表 長嶋昭親	20人

(10) 講座の評価

I 受講生に対するアンケート

平成 22 年度文化庁生活者としての「外国」人に対する日本語教育事業

「退職教員等対象日本語教育指導者養成講座」

2011.2.5 実施

回答者数 20 名/修了生 21 名

1. この講座をどこで知りましたか。

- a. 学校で 13
- b.兵庫日本語ボランティアネットワークの案内で 3
- c. 知人から 0
- d.地域の日本語教室で 0
- e.神戸新聞で 1
- f.その他 3

2. 講座について

(1) 内容について

- a. よかった 10
- b. まあまあよかった 8
- c. ふつう 2
- d.あまりよくなかった 0
- e. 全然よくなかった 0

理由、意見

- ・ いろいろな切り口から外国人支援について知ることが出来た。
- ・ 何も知らない私にとって毎回非常に充実しておりました。
- ・ 様々な立場の方のお話が聴けて自分なりにいろいろと考えるきっかけを頂けたことがとかったです。
- ・ 日本語を教えるという経験が全くないのでその教授法などの紹介があったのでとてもよかったです。
- ・ 内容も多方面にわたり外国人の生の声、現場での支援者の声も聞けワークショップも多数あり有意義でした。
- ・ ワークショップを活用した学習
- ・ 支援する者としての持つべき視点を何度も話されたような印象があります。ちよっとくどく感じました。
- ・ 「昔」でなく「今の」外国人のおかれている状況や彼らの思いを直接聞ける機会が多かったのがよかった。また「支援する」ということについて様々な視点で考えることができた。
- ・ 11回目の「すたんどばいみい」の子どもたちの思いや考えを聞くと意欲が減退してしま

った。たしかに子どもたちの思いを受け止めて活動していくべきなんだろうがあれだけ挑戦的な態度で話し合いの輪に来られると反発しなくなってしまった。愛教大の取り組みには感心しました

- ・ 内容が広範囲にわたっていたので具体的に理解できにくいところが多くありました。
- ・ 日本語支援やボランティアについていろいろな立場の方からお話を聞くことができて良かった

(2) 期間(3時間×13回)について

- a. 短かった 1
- b. ちょうどよかった 12
- c. ふつう 4
- d. 長すぎる 3

理由、意見:

- ・ 土曜日の午後開講なので現役でも続けて参加することができた。
- ・ 特になし
- ・ 同じような内容もあったと思います。4時までにしてあと質問等ある方は残っても良かったかな・・・
- ・ 半年間くらい必要⇔パート1、パート2に分けて受講できるようにして欲しい。
- ・ 遠くから通って受けたから
- ・ 時期としては年末年始は参加しづらかった
- ・ 続けて 13 回は少ししんどかったです。1 回に付きもう少し長くして回数を少なくして欲しい。
- ・ 13回では足りないと思いますが現在仕事を持っているので間にあいました。

(3) 講師・スタッフについて

- a. よかった 13
- b. まあまあよかった 6
- c. ふつう 1
- d. あまりよくなかった 0
- e. 全然よくなかった 0

理由、意見:

- ・ みなさん一生けん命講義をしてくれた。熱意を感じた。
- ・ 意欲的でていねい親切でした。ありがとうございました。
- ・ 丁寧に対応して頂きありがとうございました。欠席していた時の資料もまとめてくださってうれしかったです。
- ・ 長嶋先生、高橋さんはじめ温かな人柄で、講座も参加しやすい雰囲気でした。
- ・ 講師の皆さんの熱意に励まされた。
- ・ 多くの講師先生の話や生の声(生徒)が聞けたから。

- ・ どなたも「支援する」ということを表面的に捉えるのではなく歴史的認識をしっかり持ちながら、今現在の課題に対して前向きにとりくんでいる方たちばかりでした。
- ・ どの講師も熱意をもって輪を広げようと努力さあている思いが伝わってきました。ありがとうございました。
- ・ スタッフの方のご苦勞は大変だったと思います。ありがとうございました。
- ・ 非常に良く考えて、人選されていて本当に勉強になりました。
- ・ 大学の先生の話は分かりにくかったです。

3. 講座を受けて

(1) 日本語学習を必要とする「外国」人の事情が

- a. よくわかった 7
- b. まあまあわかった 11
- c. ふつう 2
- d. あまりわからなかった 0
- e. 全然分からなかった 0

理由、意見：

- ・ 自分でもっと積極的に情報を得ていきたいと思う。
- ・ 被支援者であった当事者が研修会で実体験を話してくれた。
- ・ とても奥が深く軽い気持ちでボランティアはできないということが本音です。国籍数も家庭の事情もとても様々ということがわかりました。
- ・ 「すたんどばいみい」の との出会いを受けて、今自分が住む兵庫県や神戸市で日本語を学んでいる人たちの声をもっと聞いてみたかった。
- ・ 奥が深く、浅くしか学べなかったが、良かったです。
- ・ 早くボランティアを始めたいと思っていますが後1年現役を退くまで猶予が欲しいと思っています。個人的なわがままと思っています。
- ・ 日本に在住している外国人と日本人の相互理解の難しさを感じた。

(2) 日本語学習支援法が

- a. よくわかった 2
- b. まあまあわかった 7
- c. ふつう 9
- d. あまりわからなかった 3
- e. 全然分からなかった 0

理由、意見：

- ・ いろいろな教室形態、テキスト、指導方法があることが分かった。
- ・ 私が不勉強なせいもあり、専門用語が多くややついていけなかった。
- ・ 技術的なこと。
- ・ 被支援者の個々の実態(日本語力、家庭での生活の様子、家族構成など)をよく把握し

て、個々に応じた支援法を考えて実施することが特に重要であることがなんとか理解できた。

- ・ 何回か欠席したこともあってやはり目の前で教えないとピンとこないこともあった。
- ・ 現実問題として、いざ明日からとなるとまだまだ不十分だと思う。
- ・ 私の理解力が乏しいためです。
- ・ 実際の指導については現場での見学をしてみなければ納得できないと思います。各教室での指導方法もあるだろうからやりながら習得していくしかないと思いました。
- ・ 具体的にその場に立った時できるか不安である。

(3) 「外国」から来た児童生徒の事情が

- a. よくわかった 6
- b. まあまあわかった 6
- c. ふつう 4
- d. あまりわからなかった 2
- e. 全然分からなかった 0

理由、意見：

- ・ 宝塚の事件の反響の大きさを感じた。
- ・ 現職時代に経験することがなかったので「目からうろこ」状態でした。
- ・ すたんどばいみいの方の生の声がなんとも重く現実の根の深さを感じた。
- ・ 本人(生徒)が来て話してくれたから。
- ・ 繰り返し話があったにもかかわらず、結果としてはよく分からなかった。
- ・ 今回は日本語を必要とする児童生徒(あるいは大人)が対象だったが日本語ができる外国人の子どもの思いもとりあげてほしい。
- ・ こうべ小学校の村山先生んお話がよくわかりました。退職後は国際教室の支援などをさせていただければうれしいです。

(4) 「外国」から来た児童生徒への支援法が

- a. よくわかった 1
- b. まあまあわかった 10
- c. ふつう 6
- d. あまりわからなかった 3
- e. 全然わからなかった 0

理由、意見：

- ・ 教室、対象の子どもの実態によって支援法は変わるのだろう。
- ・ 私事ですがパソコン、ケイタイ、FAX も何もなく、確認作業その他何も出来ず、わからない事はそのまますごしてしまった。
- ・ その子を理解してあげること、おしつけにならないこと

- ・ 日本語だけしか話せないのにできるかどうか心配でしたがなんとかなるかなと思いました。
- ・ 各教科の指導については日本人の児童への指導と同じだととらえましたが日本語指導に関してはあまり理解できていないと思う。

4. これからのこと

- ① 学校や地域で日本語学習支援に関わっていききたい 8
- ② 今は、関われないが、将来関わりたい 11
- ③ わからない 1
- ④ さらに研修を受けて考える 2
- ⑤ 関わりたくない 1

これからのこと及び全体を通じてのご感想・ご意見

- ・ とても有意義な13週間だった。
- ・ まったく軽い気持ちで研修を受けましたが、これほど大変な仕事とは思いませんでした。・家族会議で続けることに反対されました。・熱心な優秀な人達がたくさんおられて感動しました。
- ・ 自分のいる小学校の現場からできることをしていきたいと思います。
- ・ 今支援を始めたばかりですがそれが出来るのも昨年8月から(以前のも)講座で勉強したおかげだと感謝しています。スタッフそ方達のように温かい支援者の気持ちをよく理解した支援者をめざしていきたいと思います。
- ・ 毎週のことなので1回1回の受講内容を十分理解できないまま参加している。13回を15回ぐらいにしてフリータイム、フリートーク等参加者同士の話し合いの時間の設定もほしい。話し合うことによって理解も深まると思う。参加者同士どんな人か分からないまま会話も少ない。名簿もない。参加者同士のふれ合いを。最後に食事会というより途中で1回あると参加者同士のふれ合いができる。
- ・ 個人的には「すたんどばいみー」との出会いがとても大きい。今もずっと彼らのメッセージの中味を考え続けている。そのことを自分のまわりの人たちに伝え続けている。自分自身が日本語を教えることについての意味について核となる柱を持つことができたと思う。いろいろとありがとうございました。この講座に参加できてよかったと思います。
- ・ これまでも書いてきましたが現役があと残り1年ありますのでそれからは週1回程度参加させてほしいと考えています。
- ・ 現職の教員なのでいまずぐは難しいと思うが土日などにできることがあれば支援の手伝いくらいなら可能だと思う。職場で担当している国際理解や人権教育の観点からも学ぶことが多くありました。ありがとうございました。
- ・ 新聞記事を見て気軽な気持ちでこの講座を申し込んだが、外国人の現状、日本生まれの外国人の子の悩みなどを知るにつれ私にできることがあるんだろうかと思ってしまっ

た。

II 実施主体からの研修内容結果評価

- ① 今回の受講生の中には、勤務校や地域で外国人児童生徒に出会い、問題意識を持った人が、ワークショップなどがとても盛り上がり、活発な活動ができた。
- ② 「外国人」の日本における現状を当事者（ベロニカさん、ナムさんなど）から直接体験を通じた問題提起をしてもらったので、自分の身の回りの『外国』人の現状が認識できと思う。
- ③ 子ども支援の当事者団体「すたんどばいみー」の若い支援者達は自分が日本語の学校生活を送った経験から、学校における外国人児童生徒をとりまく諸問題（彼らを生きづらくさせるもの）が明確になり、彼らが自立していくための方策を身をもって知らせてくれた。
- ④ 「外国」人への日本語学習支援の根幹は、「学習者自らが学ぶ」ためにどういいお手伝いをすればよいかである。本講座で「ポートフォリオ」を活用した日本語学習法はまさしく、それに応えるものである。少し難解ではあるが、受講生の多くがその意義を知ることができた。
- ⑤ 様々なシラバスに応じたカリキュラムの組み立て方や、具体的な支援法については若干時間不足だったと思う。

III 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- ① 修了生に退職教師の養成講座修了生の会を作りメーリングリストで近況報告などを行い、更なる研鑽ができるよう情報提供する。
- ② 兵庫県内では「ひょうご日本語ネット」により県内の日本語関係者、行政、教育委員会関係者が月一度、集まり地域日本語学習支援や子ども支援についての方策について話し合いを持っている。今後その活動をより深化するにすることで支援システムを構築する。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

平成 22 年度ひょうごボランタリー基金行政・NPO 協働事業助成(NPO提案型 第 2 年次)事業「兵庫県内の企業等で働く外国人労働者およびその家族への日本語学習支援システムの構築」と連携し、モデル日本語教室設置運営へ本講座修了生を活用する。

② 研修後の人材活用

ア. 上記事業と連携し、モデル日本語教室の支援者として本講座修了生を活用する。

イ. 兵庫県内の地域日本語教室や子ども支援教室へ紹介し、支援者として活用する

- ③ 兵庫県子ども多文化共生センターの支援ボランティアとして登録をし学校などで支援する機会を提供する。

(12) 今後の課題

- ① 退職教師の持つ様々なノウハウを活かして、地域の外国人への支援活動に参加できるような体系的なシステムを構築することが課題である。
- ② 特に、外国から来た子どもたちが、自立していくような支援活動を構築していく必要があるのと、支援グループの情報交換のためのネットワーク作りが急務である。

- ③ 来年度は 5 年目に当たるので今までの講座内容(特に外国から来た子ども支援内容)について吟味しより実践的なものにしていくことが緊急課題である。